

資料 2 データ基盤構築支援業務委託料及びデータ分析システム使用料の内容

1 事業概要

時代にふさわしい行財政経営により、市の総合計画を実現していくために策定した「宝塚市行財政経営方針」における「方針 2-3 時代の変化に適応し続けるための基盤づくり」及び「方針 3 限られる経営資源の適正配分」に基づき、データなどの根拠に基づく政策立案（EBPM※）や、将来に成果を生み出すことが見込まれる事業や分野に対して、限られる経営資源を適正に配分していくための基盤を構築するものです。

※EBPM：Evidence-Based Policy Making の略で、統計や業務データなどの客観的な根拠に基づく政策立案のこと。

2 経費について（事業実施事業者はプロポーザルにより選定）

(1) データ基盤構築支援業務委託料

データ分析、情報処理技術、AI 機械学習など最先端 ICT 技術を有する専門人材（プロジェクトチーム）が、週 2 日程度、本事業を実施する場合にかかる経費を想定

- ・令和 3 年度 5,610 千円
- ・令和 4 年度から 5 年度 債務負担行為設定 44,880 千円

(2) データ分析システム使用料

データ加工や予測分析を行うためのソフトウェアのライセンス費用にかかる経費（2 ライセンスを想定）

- ・令和 3 年度 4,059 千円

3 データ基盤構築の令和 5 年度までの主な取組

	主な取組	内容
令和 3 年度	データ利活用に向けた仕組の検討 ・職員研修 ・データ集約方法や仕組み、その展開の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・データ利活用にかかる研修を実施 ・データ分析に必要な研修を実施 ・業務システムや事業で扱うデータの集約方法などを検討
令和 4 年度 ～ 令和 5 年度	データ利活用に向けたモデル化 <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修 ・モデル事業の実施 ・ロジックモデルの実装方法等の検討（予算編成など） データ利活用の段階的な実装 <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修 ・モデル事業の拡大 ・ロジックモデルの段階的な実装（予算編成など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・データ利活用にかかる研修を実施 ・データ分析に必要な研修を実施 ・いくつかの事業を分析し、ロジックモデルを予算編成などに、どのように活かしていくか、その仕組みを具体化 ・各担当部署における事業のロジックモデルを作成する研修を実施 ・データ分析に必要な研修を実施 ・予算編成などにおけるロジックモデルの段階的な実装

宝塚市行財政経営方針（抜粋）

【方針 2-3】 時代の変化に適応し続けるための基盤づくり（デジタル・データ基盤）

主な推進項目

- ・ データ整備・データ分析のための基盤構築（データの収集、蓄積、分析、可視化の機能を持つ基盤の構築を進めるとともに、データの有効活用に関する職員意識の向上に努めます。）

【方針 3】 限られる経営資源の適正配分

主な推進項目

- ・ PDCA サイクルの強化（実施計画、予算編成、事務事業評価などを連動させ、PDCA サイクルを強化します。）
- ・ ロジックモデルの活用や EBPM の推進（施策がその目的を達成するに至る因果関係を意識し、根拠（エビデンス）に基づいた政策立案を推進します。）
- ・ 将来に成果を生み出す事業や分野への経営資源の適正配分（根拠（エビデンス）に基づき限られる経営資源を適正に配分する、ワイズスペンディングを推進します。）

関連する法令や計画等（一部）

- ・ 官民データ活用推進基本法（平成 28 年 12 月）
- ・ デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針（令和 2 年 12 月 25 日閣議決定）
- ・ デジタル・ガバメント実行計画（令和 2 年 12 月 25 日改訂）
- ・ 自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画（令和 2 年 12 月 25 日）
- ・ 経済財政運営と改革の基本方針 2021（令和 3 年 6 月 18 日）
- ・ デジタル社会の実現に向けた重点計画（令和 3 年 6 月 18 日閣議決定）及び包括的データ戦略
- ・ デジタル改革関連法案（デジタル社会形成基本法など）（令和 3 年 9 月 1 日施行）